

二〇一九年度講習会 劇作分科会優秀作品

「笑顔」

相浦 愛呼 (A地区 金蘭会高校 3年)

登場人物

ミー：僕のペット。メス。猫。

僕：若い男。大学生。

舞台

「僕」の部屋。カーテンが閉まっており暗い。

アパートの一室。

プロローグ

僕がバイトから帰ってくる。

ドアのあく音。

ミー：だってあなた私をだましましたでしょう!!

僕：。。。

ミー：だってあなた私をだましましたでしょう!!

僕：はあ!? ミー、どうしたんだよ。ていうかなんでしゃべってんだよ。

ミー：言葉覚えた。

僕：いつ!

ミー：テレビの音聞いて覚えた。

僕：どのように!

ミー：そんならどうだっていいじゃん。

僕：夢見てんのかな。。。そうそう今日はがんばりすぎたんだ。そうだ今日は早く寝よう。

うんうん。

ミー：にゃー! (強烈な猫パンチ)

僕：痛っ。。。なにすんだよ!

ミー：僕、ミーをだました。僕、ミーにうそついた。

僕 さつきからなんだよ。だまされたまじったって。

ミー なんて最近帰ってくるのおそい？

僕 バイトで忙しいんだよ。

ミー ミーおなかすいてる。最近ごはんの時間おそい。

僕 はいはい。ごはんがほしいんだよ。えーと。(柵からエサをとる。) あっ、もうすぐな  
くなりそうだな。買わないと…。

ミー ねえ、僕。

僕 だからちよっと待って。

ミー みたいじめられてるんでしょ。

僕 はあ？

ミー 毎日見てたらわかるよ。いつも笑顔でいってきます、ただ今。そう言っているけどい  
つも目が笑ってない。いつもそう。いつもそうだった。

僕 ミーに何が分かるんだよ。

ミー その手のあざなに。

僕 関係ないだろ。あれだよあれ、ぶつけたんだよ。

ミー なんで帰ってくるのおそい。

僕 いろいろやることあるんだよ。

ミー やさしいね。

僕 もー、何が言いたいんだよ。はい、ごはん。

ミー いつもありがとう。

僕 家族なんやからあたりまえやろ。

ミー 無理じゃなくていいんだよ。ミーに話してもいいんだよ。

僕 さつきから何を言ってる…

ミー (遮って) ニャー！(猫パンチ)

僕 もう！さつきからなんなんやて。猫がなにベラベラしゃべってたんだよ。何が言いたい。  
どうせ僕に不満があるんだろ。言いたいことがあるならばつきり言えよ！

ミー ミーもうすぐ死ぬ。また死んじゃう。だから僕助けてい。

僕 また？

ミー あの日、ミーは…、私は僕を…、あなたを置いてきぼりにしてしまった。

僕 えっ？

ミー あなたはいつも楽しそうな顔で笑顔で私に話しかけてくれた。私はうれしかった。そ  
れが1日のうちの一番の楽しみだった。だけど悲しかった。

僕 …。

ミー ねえ大学は楽しい？

僕 うん。

ミー 友達とはうまくいってる？

僕 うん。

ミー いじめられたりしていない？

僕 大丈夫だよ。

ミー そう…。ね、わかる？あなたは私に心配させるようなことを何も言わない。いつつも笑顔でうそをつく。その笑顔で私をだます。

僕 …。ねえ、もしかして…

ミー (遮って) ストップ！フフ、私も今あなたをだましているんだから。さっき言った通りミーはもうすぐ死んでしまう。ねえ知ってる？猫はね、大好きな人の前では死んでる姿を見せたくないの。大好きな人のかなしんでいる顔を見たくない。

僕 死んじゃいや！もう大切なものを失いたくない。

ミー でも死んでしまう。この地球上にいる者はいずれ死んでしまうの。

僕 いやだいやだいやだ…。

ミー もう誰もだましちやいけないよ。もちろん自分自身も。

僕 お母さん！！

ミー あら…。私はミーよ。

僕 いかないで。ミーまでいなくなったら僕はなにもかなくなってしまう。いやだ。

ミー 僕ならやっていけるよ。だから相手をだますのは私で止めておいてよね？じゃあね。バイバイ。

僕 ミー！！

ミー (強烈な猫パンチ。) だから僕の泣いている顔がみたくないの！

僕 ミー…。

ミー ばいばい。またいつか会おうね。

次の日。朝。

僕 うん…。うん？ミー？朝…。昨日のは夢だったのかな。(机の側にお守りが置いてあるのに気づく。) 母さんのお守り…。なくなったと思ってた。(お守りを握りしめて)

もう誰もだましたりしない。自分自身も。ありがとうミー。そして母さん。

大学に行く用意をする僕。

僕 (笑顔で) 行ってきます。